

本書に具体的に記載した追跡調査等

生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全

-1 植物(第15節)

調査項目	調査方法等	備考
注目すべき植物種: エビラフジ イトトリゲモ サガミトリゲモ イトモ ヒツジグサ	現況調査方法に準じて、事業実施後の状況を調査する。 調査は供用開始前及び解体工事終了後の2回実施する。	地域整備事業における保全措置や事後調査と連携しつつ、追跡調査を行う。

-2 動物(第16節)

調査項目	調査方法等	備考
オオタカ・ハチクマ	現況調査方法に準じて、工事開始前から解体工事終了後まで毎年、営巣期間を含む前後1ヶ月間について実施する。	地域整備事業における保全措置や事後調査と連携しつつ、追跡調査を行う。
ムササビ	現況調査方法に準じて、事業実施後の状況を調査する。 調査は工事期間中、供用中及び解体工事終了後の3回実施する。	
ゲンジボタル		
ギフチョウ		
カワセミ		
アオゲラ等繁殖鳥類		
ゲンジボタル		

-3 生態系(第17節)

調査項目	調査方法等	備考
上位性の観点	最高次消費者であるフクロウの事業実施後の生息状況を、現況調査方法に準じて調査する。 調査は工事期間中、供用中及び解体工事終了後の3回実施する。	地域整備事業における保全措置や事後調査と連携しつつ、追跡調査を行う。
典型性の観点	中型哺乳類については現在調査中の個体の行動追跡及び夜間自動撮影を実施する。 調査は工事開始前から解体工事終了後までの期間とし、継続して実施する。	
特殊性の観点	シデコブシについては、現況調査で設定した方形区を対象とする生育状況調査を現況調査方法に準じて実施する。 調査は工事開始前から解体工事終了後までの期間毎年実施する。 また、水文環境調査についても現況調査方法に準じて実施する。 調査は工事開始前から解体工事終了後までの期間とし、継続して実施する。	